

1993年

圃場と土壤

4

NO. 286

土佐の大綱引き 高知県土佐市



財団法人 日本土壤協会



高知県土地改良区偉人伝

鎌田井筋と野中兼山

元和元年(1615)～寛文3年(1663) 49才



野中兼山
鎌田井筋を築造。
藩政時代の大政治家
大経済者、大土木技術者

参考資料及び文献
野中兼山 横川末吉著
野中兼山とその時代 平尾道雄著
土佐市のくらし 土佐市のくらし編集委員会
まんが 水谷たけ子

指導
土佐市土地改良区 長尾幸一郎事務局長
高知県農林水産部耕地課水利整備班
田村滋 班長
中国四国農政局整備課
小笠隆輝 課長補佐

土佐は戦国末期まで長宗我部元親
が勢をふるっていましたが、豊臣秀吉
に征服され、後に徳川家康が
領土を山内一豊に与えました



長宗我部元親

豊臣家が滅亡して秀忠の世に兼山
は藩祖山内一豊の末の孫として
姫路で誕生。父は野中良明



兼山は父の死で土佐に移り野中直継
の養子となります
寛永8年(1631)17歳の時、世嗣忠豊
池田光政の妹(長)と挙婚。



土佐藩主山内忠義さまが
江戸からお戻りた

大阪から船で浦戸へ
お着きた。途中嵐に
合われた事だう 参勤
交代はご苦労な事だ



お帰り
あそばし
家老職の兼山が留守中の
政務を苦労であった

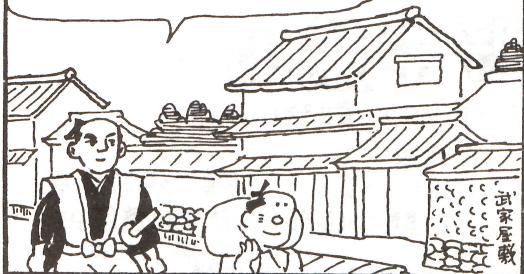


22歳で兼山は養父直継の没後、家督を継ぎます

30年の間、兼山は藩を豊かにして来ました



藩を榮えさせ、大勢の武士を
養うに行くには年貢を増すことだ



寛文20年(1643) 兼山本山掟を定めました

兼山本山掟

- 一、お上にとおかないこと
- 二、荒地は残さず、田地にせよ
- 三、年貢はかきかず、おさめよ
- 四、作った米を飯や酒にして食べた者は死刑にする
- 五、朝早く起き、よく働くこと
- 六、お上のいつけを失くすませてから自分の事をせよ

(後略)

以上のことを守らねば本人は
もとより、庄屋も罰する



兼山は藩主、高岡地区を開拓すると
共に、物部川に山田堰、仁淀川に
八田堰と弘岡用水などをつくり、
各々流域に新田を開きました

長宗我部氏の
浪人をとりたて
くださるのだ

ありがたい、収入源が
出来た、労働参加しよう



